

特定非営利活動法人サロン 2002

2019 年度 活動報告書



はじめに

「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げるわたしたちの 2019 年度の活動報告書をお届けします。

いろいろなことがありました。ラグビー・ワールドカップでは世界中から「よく飲む人たち」が大勢やってきて「大人のスポーツの楽しみ方」を目の当たりにしました。NPO サロンでは、公開シンポジウムはもちろん、通算 280 回を超える月例会でラグビーの話題を何度も取り上げました。「TOKYO 2020」の準備が進み、元旦の天皇杯決勝が新国立競技場で行われる少し前、2 日間にわたって高校生向けのオリンピック教育プログラム「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2019」を東京都高体連研究部と共催しました。その 2 日目には「第 2 回 Non-Border ボッチャ交流会」を主催し、150 名もの参加者との交流を楽しむことができました。年明け早々の「第 4 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」は開催地（長野県千曲市）の方々から多大なるご支援をいただき、地域に根差したイベントとして定着してきました。YSCC と連携して行ったスキンプログラム、SFT コンソーシアムでのさまざまな団体との交流など、私たちにとっても有意義な、今後につながる 1 年でした。

しかしながら 1 月末に顕在化した「新型コロナ」の影響で、これら数々の楽しい思い出はすべて遠い昔の出来事に追いやられた感があります。まったく別の世界となってしまいました。

人々の生活はがらりと変わり、「TOKYO 2020」をはじめ、数多くの、さまざまなレベルのイベントが中止や延期に追い込まれました。社会の機能は停止したまま 2019 年度を終え、いまだ日常とはほど遠い状態が続きます。

人類は過去何度も同様の危機を経験してきましたが、“ゆたかなくらし”の構成要素にスポーツが明確に位置けられた 20 世紀後半以降、これほどの大規模な感染症はありません。NPO サロンの月例会も、1 月までは通常通り行われましたが、2 月と 3 月は中止となり、年度が改まった 4 月と 5 月に「新型コロナにどう向き合うか」というテーマでオンライン月例会を開催しました。理事会も、いまではオンライン開催です。

私たちが“志”に掲げる“ゆたかなくらし”も、“いのち”あつての話です。自分自身はもちろん、自分のまわりの大切な“いのち”のために辛抱しなくてはなりません。しかしただひたすらじっとしているだけでは、もう一つの脅威である「飢え」が襲ってきます。感染症対策と経済活動をいかにバランスよく展開してくか。そして、この未曾有の危機にあつて考え、新たにトライしたことを「コロナ後」にどうつなげていくかが問われています。

個人的な話で恐縮ですが、「新型コロナ」の大騒動の少し前、個人情報管理に関する大失態がありました。そのこともあつて、NPO サロンの運営方法の見直しをはじめた矢先の「新型コロナ」でした。

ルネサンスはペストのあとに訪れました。「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」も、「新型コロナ」のパンデミックを経て、新たな段階に目を向けるときがきています。

“同志”の輪を広げながら、新たな時代に臨む所存です。

2020（令和 2）年 5 月
特定非営利活動法人サロン 2002
理事長 中塚義実

目 次

はじめに.....	1
NPO法人サロン2002理事長 中塚義実	
目 次.....	2
【調査研究・情報提供・普及啓蒙事業】	
1. 月例会活動報告.....	3
2. 公開シンポジウム.....	11
【イベント開催事業】	
3. 第4回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ.....	12
4. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2019.....	15
5. 第2回 Non-Border ボッチャ交流会.....	19
6. リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト.....	22
【支援・受託・派遣事業】	
7. 「DUO リーグ」事務局業務受託.....	23
【国際交流事業】	
8. Sport for Tomorrow 事業への参加.....	24
【人的ネットワーク管理運営事業】	
9. 事務局報告.....	25

1. 月例会活動報告

《2019年4月（通算272回）月例会報告》

【日 時】2019年4月23日（火）19:00～21:30（その後は自由に懇談。22:30頃まで）

【会 場】ダイニング翼-聖地国立に一番近いお店-（東京都新宿区信濃町8-11 坂田ビルB1）

【テーマ】コミュニティ型のサッカーグラウンドづくり

【演者】加藤遼也（love.fútbol Japan 代表）

【コーディネーター】岸卓巨（NPO 法人サロン2002 事務局）

【参加者（会員・メンバー）9名】

岸卓巨（サロン2002）、北原由、清水絢子、白井久明（弁護士）、中塚義実（筑波大学附属高校）、張寿山（明治大学）、徳田仁（(株)セリエ）、皆川宥子（東京大学大学院）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）

【参加者（未会員）11名】

浅見明子（J-Workout(株)）、金岡天夢（JADA）、河本敏夫・竹中大地（NTT データ経営研究所）、国島栄市、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）、福島成人（ヨコハマ・フットボール映画祭）、宮本忠哲（株式会社ネオキャリア）、守屋佐栄、米田恵美、和田弘（日本スポーツ振興センター）、

【報告書作成者】清水絢子

【概要】

love.fútbol は、「more than place to play（＝スポーツをする以上の場所）」をコンセプトに、これまで8カ国、34地域で子どもたちのサッカー（スポーツ）グラウンドづくりをしています。地域住民を主役とするコミュニティ型の手法を通じて、スポーツをする場所が地域と子どもの社会課題解決の拠点になることも証明してきた団体です。月例会では、子どもたちが安全なスポーツ環境を必要としている社会的背景やそれに対するコミュニティ型の手法と成果を紹介いただき、日本で子どもたちのスポーツ環境を変えるべく、「これからの日本社会ではどんなスポーツグラウンドが求められているか？」について参加者でディスカッションを行いました。Facebook で月例会を知った初参加の方にも多く参加いただき、熱い議論が行われました。

会場は2019年1月にペルー料理屋「ティアスサナ」跡地にオープンしたばかりのスポーツカフェ「ダイニング翼」で実施しました。FC 東京を全力で応援するお店として有名な中目黒「アオトアカ」のオーナーが聖地新国立競技場のお膝元に新装開店したお店として話題のお店です。

《2019年5月（通算273回）月例会報告》

【日 時】2019年5月24日（金）19:00～21:10（終了後は「旺達」～23:30ごろまで）

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1）

【テーマ】ラグビーはよくわからない…という方のための、

ラグビーワールドカップ日本大会の楽しみ方

【演 者】直江光信（スポーツライター）

【コーディネーター】嶋崎雅規（国際武道大学）

【参加者（会員・メンバー）10名】

井上俊也（大妻女子大学）、宇都宮徹壺（フリーランス）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（日本アンチ・ドーピング機構）、木村康子（編集者・ライター）、

小池靖（在さいたま市／サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、
名方幸彦（文京教育トラスト）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）

【参加者（未会員）15名】

直江光信（スポーツライター）、鈴木崇正（NEC マネジメントパートナー）、
北澤仁・本間雅裕・関屋忠彦（麻布 OB）、坂本英美（麻布多摩川クラブ・メンバー）、
谷原満里子（浦安市在住）、飛澤潔一（葛飾区体育協会）、唐木真成夫（武惑クラブ）、
東田浩平（筑波大学）、佐藤渚（東京エレクトロン(株)／観戦ファン）、土井芳信、小川精一郎、
守屋佐栄、国島栄市

【報告書作成者】 田島嶺（国際武道大学院）

【概要】

いよいよ本年9月20日に、ラグビーワールドカップ（RWC）日本大会が開幕する。RWCはFIFAワールドカップ、オリンピックと並ぶ世界3大スポーツイベントと言われており、約1か月半の大会期間中は多くのファンが海外から来日し、日本中が盛り上がる事が予想される。もっとも、RWCが日本で行われることは知っているけれど、ラグビーのことはよくわからない…という方はとても多い。今回は、そうした方々にRWC日本大会をより深く楽しんでいただくための予備知識として、ラグビーにまつわる話がいくつか紹介された。主な内容は

- I. 自己紹介
- II. ラグビーを楽しむポイントについて
- III. ワールドカップの歴史について
- IV. ワールドカップの経済効果
- VI. 今大会の見どころ
- V. 日本でワールドカップを行う意義
- VII. 日本が入るプール A の見どころ
- VIII. ワールドカップまでの日本の戦績

《2019年6月度月例会は総会終了後、意見交換会として実施》

《2019年7月（通算275回）月例会報告》

7月14日（日）に公開シンポジウム「ラグビーワールドカップ2019を語ろう！」を行う

《2019年8月（通算276回）「お宝映像上映会」報告》

【日時】 2019年8月23日（金）19：00～21：50 ごろ（～23：20 ごろすべて終了）
18：30 アップ開始（2015大会のダイジェスト映像を楽しみつつ飲み食いしながら）
19：15 キックオフ（日本 vs 南アフリカ）。
試合後は飲み食いしながら懇談

【会場】 ダイニング翼 <https://r.gnavi.co.jp/4dxzngdc0000/map/>

【テーマ】 ラグビーW杯2015：伝説の「日本 vs 南アフリカ」DVD 観戦
－日本開催のラグビーW杯に先立つ観戦ガイド

【参加者（会員・メンバー）8名】

大河原誠二（桐窓サッカー倶楽部）、奥山純一（プログラマー）、岸卓巨（サロン 2002）、北原由（青梅 FC）、嶋崎雅規（国際武道大学）、徳田仁（㈱セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、横尾智治（筑波大附属駒場中高）、

【参加者（未会員）8名】

古賀淳市（都立六郷工科高）、古賀裕喜子（小学校の栄養士／ランニング趣味）、齋藤守弘（日本ラグビー協会）、佐藤渚（東京エレクトロン(株)／観戦ファン）、杉崎宏（Le Coeur）、鈴江智彦（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング）、原和也（公務員）、吉田毅（桐蔭横浜大学）

【概要】

ラグビーW杯 2015 イングランド大会のプールマッチ初戦「日本代表 vs 南アフリカ代表」を大スクリーンで観戦した。試合を見ながら「よくわからないこと」をどんどん質問する。それに対して、日本ラグビーフットボール協会の齋藤氏やラグビー経験者の古賀氏・嶋崎氏らがタイムリーに回答しながら試合は進んでいった。後半、南アフリカに先行されるが日本も五郎丸の PG など追いつく。後半半ばに日本はど真ん中を割られトライを許す。ここで「やっぱりな」「勝負あったか」と思ったが、その後も踏ん張り、会場のムードが少しずつ変わってくるのを映像からも感じる。そして最後のあのシーン…。大勝利に改めて乾杯！

その後、しばらくは席を移動しながら懇談。ほとんどすべ他の人が初対面なのでおもしろかった。

全員で集合写真を撮影。最後に、日本ラグビー協会の齋藤氏よりラグビーワールドカップへ向けてのコメントをいただき、さらに齋藤氏手作りの「日程表」が配られた。

《2019年9月（通算277回）月例会報告》

【日時】 2019年9月26日（木）19:10～21:10（終了後は「旺達」～23:30 ごろまで）

【会場】 筑波大学附属高校 3F 会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】 シンガポールで感じたこと②

—13年ぶり 2度目の APYLS（アジア太平洋青少年リーダーズサミット）引率を通して

【演者】 中塚義実（筑波大学附属高校教諭／NPO 法人サロン 2002 理事長）

【参加者（会員・メンバー）7名】

小池靖（在さいたま市／サッカースポーツ少年団指導者）、笹原勉（日揮(株)）、関秀忠（元生徒／弁護士）、徳田仁（㈱セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、野口亜弥（順天堂大学）、皆川宥子（東京大学大学院）

【参加者（未会員）6名】

鎌倉芳信（元筑波大学附属高校教諭）、浅見道明・今西智津子（筑波大学附属高校教諭）、塩田玲子・古澤壮太郎（元生徒）、村本ひろみ（麻布高校）

【報告書作成者】 中塚義実（筑波大学附属高校教諭／NPO 法人サロン 2002 理事長）

【概要】

はじめに

- I. 2006年（13年前）のシンガポールと AYLs（アジア青少年リーダーズサミット）
 - II. 2019年のシンガポールと APYLS（アジア太平洋青少年リーダーズサミット）
 - III. 主催校の HCI（Hwa Chong Institution ホワチョン校）
 - IV. 13年ぶり2度目のシンガポールで感じたこと—“変化”と“壁”と“危機感”
 - V. ディスカッション
- 7/20～7/28 の期間、華人（中国系の住民）がつくった HCI（Hwa Chong Institution）

<<http://www.hci.edu.sg/>>が主催する APYLS（アジア太平洋青少年リーダーズサミット）に参加する生徒3名の引率（麻布高の3名とともに日本代表は6名）として13年ぶり2度目のシンガポールを体験した。2006年度に始まった APYLS は、SARS で一度中止になっているので今回は13回目。「13年ぶり2度目のシンガポール」とは、第1回大会に引率して以来ということ。

13年ぶりのシンガポールでは、さまざまな面で変化を感じた。APYLS（第1回は英米豪がおらずアジア勢だけ。名称はAYLSだった）の変化、ディスカッションのテーマや内容、高校生の変化も感じた。

シンガポールで中塚氏が感じたいろいろなことが報告された。

《2019年10月（通算278回）月例会》

【日時】2019年10月24日（木）19:05～21:10（終了後は「旺達」～23:30 ごろまで）

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】マコン（フランス）に行ってきました

－第12回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告会

【演者】山田恵子（自由学園女子部）

【コーディネーター】中塚義実（筑波大学附属高校/NPO 法人サロン 2002 理事長）

【参加者（会員・メンバー）2名】

中塚義実（筑波大学附属高校）、濱本悟志（筑波大学附属学校教育局）

【参加者（未会員）10名】

青柳秀幸（国士舘大学大学院）、内田裕之（自由学園）、岡山憂（川崎市立下作延小学校/JOA 会員）、諏訪桜子（東京学芸大学教職大学院）、田原淳子（国士舘大学）、内藤智（中京大学附属中京）、萩川由希子（参加生徒保護者）、山田恵子（自由学園）、山西優香（筑波大学附属高校卒業生/北京大会参加）、ほか1名（掲載可否を確認中）

【2次会からの参加者】小池靖

【報告書作成者】山田恵子（自由学園）

【概要】

世界中の高校生約100名が集い、座学や討議、スポーツやアート活動を通して「オリンピズム」を学び、交流を図る「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（国際 YF）」が、2年に一度開かれている。2019年8月24～31日にフランスのマコンで開かれた第12回大会には、日本から6名の高校生が参加した。報告者は同フォーラム引率の山田恵子氏である。

国際 YF については、2011年（北京・中国）、2013年（リレハンメル・ノルウェー）、2015年（ピエスチャニ・スロバキア）、2017年（ウレヌムレ・エストニア）についても月例会で報告されている。今回も過去の大会同様、クーベルタン賞をめぐる活動がフォーラムの中心行事であった。事前に行われるボランティア活動やオリンピズムについてのポスター制作に加え、筆記テスト、スポーツテスト、アートパフォーマンスなどで評価される。日本チームはみながよく頑張り、全員クーベルタン賞を得ることができた。また、各国の文化を紹介するミニエキスポや、連日開かれるダンスパーティなどを通して、世界中の高校生と交流を深めていく様子も紹介された。引率教員同士の交流も盛んで、今回は「ユースフォーラムの歌」もつくられ、クロージングセレモニーでの合唱は感動的だったとのこと。

次回は2021年にキプロスで開催される。参加生徒の選考を兼ねた「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム（国内 YF）」が2020年末に開催される。また、選考を伴わない国内 YF も、高体連の協力を得ながら計画されている。

「オリパラ教育」を2020年以降にいかにつなげていくかが課題である。

《2019年11月（通算279回）月例会》

【日時】2019年11月22日（金）19：00～21：00

【会場】桐陰会館（筑波大学附属中学・高校 敷地内）

【コーディネーター】岸卓巨（NPO法人サロン2002事務局長）

【テーマ】第2回 Non-Border ボッチャ交流会イベント（ボッチャ講習会&第2回実行委員会）

【参加者（会員・交流会実行委員）4名】

岸卓巨（サロン2002）、関秀忠（弁護士）、中塚義実（筑波大学附属高校）、皆川宥子（東京大学大学院）

【参加者（未会員・交流会実行委員）10名】

岸清馨（理学療法士）、岸弘之（豊島区スポーツ推進委員）、相良優子（Taiyointernational 財団）、佐藤妙子（豊島区スポーツ推進委員）、永井拓海（アフリカ雑貨 Machakos）、新部遥希（日本ブラインドサッカー協会）、平井悠登（明星大学）、平野裕人（NEC）、村山恵子（鍼灸師）、山口恵里佳（日本スポーツ協会）

【参加者（未会員・交流会実行委員・ネット参加）2名】

浅見明子（J-Workout）、平野裕人（NEC）

【参加者（未会員）2名】

中谷正義（Surf Classic）、宮崎訓年（NEC）

【報告書作成者】岸卓巨（サロン2002）

【概要】

「年齢や国籍、性別、障がいなどの違いを乗り越えてスポーツで繋がる機会を創造したい!」。そのような想いでNPO法人サロン2002では「Non-Border ボッチャ交流会」を開催している。今年2月に開催した「第1回 Non-Border ボッチャ交流会」では、ナイジェリアやネパールの方々をはじめ、国籍・年齢・性別・スポーツ経験の異なる多様な人々が約130名集まり、ボッチャを通して交流を深めた。

今回の月例会では、12月22日に予定している「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」のイベントとして、ボッチャを楽しみながらルールを学び、「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」のプログラムについてディスカッションをおこなった。

具体的には、まずコート作り講習とレイアウトの検討を行った。コート作成後、実際に4チームに別れ、2コートを使ってボッチャを行った。初めてボッチャを行う出席者もいたため、ルールを説明しながら2ゲームを行った。

和室に移動し、参加者の自己紹介を行った後、交流会に向けて内容などについての現状共有とディスカッションを行った。悪天候のため会場に来られなかった平野氏、ドイツ出張中の浅見氏はZoomを通じた参加となった。具体的には、

- (1) 参加申込状況、スタッフ募集状況について
- (2) チーム紹介、ワークショップなど交流企画について
- (3) 映像上映、ルールブックなどボッチャを知る企画について
- (4) 始球式（中継先）、チャリティ企画について
- (5) 今後のスケジュール

について話し合いが行われた。

《2019年12月（通算280回）月例会報告》

【日時】2019年12月16日（月）18：30（ボチボチ集合）～19：00（乾杯）～22：00（中締め）

※最後は23：30ごろまで

【会場】（一社）文京ラグビースクール事務所

文京区白山1-33-24 齋藤ビル2F（都営三田線白山駅下車すぐ。フレッシュバーガーがあるビルの2F）

【テーマ】それぞれのラグビーワールドカップ2019—思い出話とこれからの話

【参加者（会員）13名】

安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、今廣佳郎（(有)JLA ASIA）、岸卓巨（サロン2002）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、齋藤芳（桜丘中学高等学校（体育科））、齋藤宣彰（(有)JLA ASIA）、白井久明（弁護士）、関秀忠（弁護士）、鄭舜圭（一般社団法人 Sport For Smile）、名方幸彦（NPO 法人文京教育トラスト事務局長）、中塚義実（筑波大学附属高校）、平井悠登（明星大学）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）

【参加者（未会員）7名】

金岡天夢（JADA）、北澤仁（元新日鉄釜石ラグビー部長）、齋藤守弘（文京ラグビースクール）、清水美咲（JADA）、山田研也（筑波大学附属高校）、渡部博幸（文京ラグビースクール）、守屋佐栄

【概要】

通算280回となる月例会は、忘年会を兼ねた会費制持ち込みパーティーとなった。

サロンの忘年会はこれまでただ単に集まって飲むだけでなく、「お宝映像上映会」など「テーマ制のある飲み会」としてきた。今年のテーマは、もちろんラグビーワールドカップ。

サロン2002では、誘致が決まった2009年度に続き、今年度の公開シンポジウムで「ラグビーワールドカップを語ろう！」を取り上げた。月例会でも何度かラグビーネタを取り上げてきたのはご存じのとおり。一方、文京ラグビースクールは地域に根差した活動を続け、日曜日の朝、筑波大学附属高校はラグビーボールを追いかける子どもたちと、温かく見守る大人の姿であふれかえっている。

今回は文京ラグビースクールの事務所をお借りして、「4年に一度じゃない、一生に一度」の世界的イベントを振り返りつつこれからを大いに語る場とした。

当日は、3人の方からプレゼンをいただいた。

プレゼン①中塚義実「私のラグビーワールドカップ2019」

9/20 有楽町PV、9/22 横浜、9/25 釜石などの実体験を、写真を用いて紹介した。

プレゼン②齋藤守弘「全会場を回った体験より」

文京RSの齋藤校長は全会場をまわって観戦した。その体験を語っていただいた。

プレゼン③「ラグビーワールドカップ2019と文京RS」

期間中のイベント（PVなど）や大会後のフェスティバルの様子など紹介（台風の影響で河川敷グラウンドが使えなくなった各地RSとの連携など）

《2020年1月（通算281回）月例会報告》

【日時】2020年1月28日（火）19：00～21：00

【会場】筑波大学附属高校3F会議室（終了後は「品菜軒」にて懇親会 ～23：30）

注）護国寺方面の中華料理屋「品菜軒」（TEL：03-5981-8992）は「カリンカ」「ルン」「景宜軒」「旺達」跡地にあるお店で、年末or年明けにオープンしたようです。「カリンカ」を思わせる内装です。

【演 者】 関秀忠（弁護士／NPO 法人サロン 2002 理事）

【テーマ】 サッカーの脳挫傷の現況と GK ヘッドギア標準ルール導入の可否（仮題）

【参加者（会員）6名】

安藤裕一（（株）GMSS ヒューマンラボ／医師）、岸卓巨（JADA）、齋藤芳（桜丘中学高等学校体育科）、関秀忠（弁護士）、鄭舜圭（一般社団法人 Sport For Smaile）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）4名】

金岡天夢（JADA）、岸清馨、高橋昌嗣（歯科医師）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）

【報告書作成者】 関秀忠

【概要】

サッカーの GK のいわゆる「1 対 1」のチャレンジは、常にボクシングの「クロスカウンター」の如き一撃の危機を伴うものであり、また、ゴールポストという金属に向かって横っ飛びするという常時危険な運動を行っている。

2017 年 10 月、インドネシアのプロサッカークラブのゴールキーパー選手がゴール前の激しい激突により顔面・首を負傷し、意識不明のまま死に至るといふ悲しい事件が起きた。しかしながら、その後も 2019 年に名古屋 GK ランゲラク選手や柏 GK 中村航輔選手が、いずれもサイドからのセンタリングに飛び込む類似シーンにおいて、誰にも過失が認められないごく普通に起こり得るプレーで FW と衝突し、脳震盪で救急車で運ばれ、長期離脱を余儀なくされた。

生命や高度障害の危険を伴う脳震盪について、日本サッカー協会も問題意識を持ち、「事故後」に経過観察を行うプログラムを経るガイドラインが設けられている。しかしながら、これらの事故を「未然に防ぐための事前策」は、未だに無いと言わざるを得ない。死者や高度障害の危険が出ているにもかかわらず、いつまでも GK は頭部・顎部を守る術を持たず生身の状態でプレーしている。このままでよいのか？それとも将来、GK は防具の装着が義務付けられ「カスタマイズされたマウスガード」や「カッコ良い新型ヘッドギア」を付けるのが当然となり、後に振り返ったとき、現在の状況がサッカーの歴史中の「過渡期」であったということになるのだろうか？

本月例会では、①ヴァージニア工科大学によるヘッドギア装着効果の実験結果が報告されるとともに、②マウスガードの専門家である高橋昌嗣氏により、GK がカスタマイズされたマウスガードを装着した際には、動作は勿論のこと、ゴールキーパーによるコーチング（口頭による指示）にも全く支障を来さないことが示された。また、③ラグビーやアメリカンフットボールにおけるマウスガード・ヘッドギアの実情、④学校スポーツにおける頭部障害事例、⑤法的責任の金額インパクト、⑥すね当ての全世界におけるルール化及びビジネスへの発展経緯、等についても報告された。ヘッドギアやマウスガードの装着やその有用性についての議論を高める出発点となり、サステナブルなスポーツ社会を築き上げるために「今は過渡期」かもしれないという気持ちを持って、未来のために勇気のある正しい判断を下していくための研究とプロセスを積み重ねていくことが示唆された。

今 後、①脳神経外科医らによる脳震盪の危険性の医学的検証、②脳震盪サンプル（病院・データ）、③スポーツメーカーヒアリング（レガースルール化及び普及をもとにしたビジネス可能性の模索）、④JFA 各指針に関する聴取、ルール化に向けた障害と実現可能性、⑤米国におけるヘディング禁止事実の可否確認、⑥ラグビー・アメフト関係者のヘッドギア装着の現状と課題の掘り起こし、⑦GK プレイヤーのヒアリング（実体験・見聞事実その他）などにわたる、幅広い分野への研究方向性が示された。

《2020年2月（通算282回）月例会》

【日時】2020年2月28日（金）19：00～21：00

【会場】（一社）文京ラグビースクール事務所

文京区白山1-33-24 齋藤ビル2F（都営三田線白山駅下車すぐ。フレッシュバーガーがあるビルの2F）

【演者】嶋崎雅規（NPO法人サロン2002理事／国際武道大学）

【テーマ】メガスポーツイベントと地域活性ーラグビーワールドカップが地域に遺したもの

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

《2020年3月（通算283回）月例会》

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言のため中止

2. 公開シンポジウム

2019年7月14日に、「ラグビーワールドカップ2019を語ろう！－4年に一度じゃない。一生に一度だ－」と題して、公開シンポジウムを開催しました。

9月20日に、ラグビーワールドカップ（RWC）日本大会が開幕するのを前にして、今回の公開シンポジウムでは、ラグビーのワールドカップを取り上げました。

2009年度の公開シンポジウムで取り上げたラグビーワールドカップ。当時はまだ先の話で実感がありませんでしたが、いよいよその年になりました。日本代表はもちろん、開催自治体はじめ、全国各地でさまざまな“挑戦”が為されています。2019年日本大会を盛り上げ、楽しむため、シンポジウムでは数々の“挑戦”をご紹介いただきながらラグビーの、そしてワールドカップの魅力を共有しました。そして、2019年の成果をいかに2020年につなげるか。そしてその先に何を残すかについても考えました。

シンポジウム終了後は同会場で懇親会を実施、さまざまな立場の方が集い、立場を越えて交流を深める場となりました。

本シンポジウムの内容については、広報誌『遊 ASOBI』第3号に詳しく掲載されています。

テーマ : ラグビーワールドカップ2019を語ろう！

－4年に一度じゃない。一生に一度だ－

主催 : 特定非営利活動法人サロン2002

後援 : 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会

日時 : 2019（令和元）年7月14日（日） 14：00～17：00（受付13：30～）

※懇親会 17：30～19：00

会場 : 桐蔭会館

プログラム :

講演2) 3 大会出場の元日本代表が語るラグビーワールドカップのすばらしさ

演者 : 村田 互（専修大学ラグビー部監督、元7人制日本代表監督）

講演1) RWC2015 南アフリカ戦の勝利から日本は何を学んだのかー日本代表ベスト 8 への道

演者 : 薫田 真広（（公財）日本ラグビーフットボール協会、元日本代表キャプテン）

講演3) アジアラグビー協会名誉会長が語る RWC2019 日本大会招致の舞台裏

演者 : 徳増 浩司（ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長特別補佐、アジアラグビー名誉会長）

参加者 : 51名

3. 第4回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

スポーツのチカラをカタチにー第4回大会を終えて

4回目となる今大会は、長野県千曲市での2度目の開催となりました。これまで同様、開催県のサッカー協会にご後援いただき、同じくフットサル連盟の主管のもと、地元のごさえによって大会が運営されました。さらに今回は、長野県、長野県教育委員会、千曲市、(一社)信州千曲観光局、戸倉上山田温泉旅館組合連合会のご後援もいただきました。歴史ある武水別(たけみずわけ)神社へ公式参拝して大会の成功と安全を祈願できたのも、千曲市長がキックオフセレモニーをしてくださったのも、この大会が地域とともに歩みはじめたことを表しています。協賛してくださった加茂商事株式会社、株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション、多摩大学とともに、地元のみならず心より感謝申し上げます。

台風による洪水被害の爪痕がまだまだ残る当地において、「私たちに何ができるか」を考えながらの大会運営でした。開会式で義援金を千曲市長にお渡ししたのはその一例です。そして何より、U-18年代のはつらつとしたプレーそのものが、スポーツのチカラをカタチとして示すものでした。

「スポーツのチカラ」は昨今、さまざまな場面で耳にするフレーズです。

私たちは、スポーツにチカラがあることをすでに知っています。そのチカラは、カタチにしていかななくてはなりません。地域とともにこの大会を育てていくのも一つのカタチです。また、この大会の二つのねらいーU-18年代のレベルアップと日常的なリーグ環境の整備ーは、時間はかかりますがいずれもカタチにすべきものです。

それぞれの現場で、スポーツのチカラをカタチにしていこうではありませんか。「スポーツを通してのゆたかな暮らしづくり」を“志”に掲げる本法人も、何ができるかを考え、行動してまいります。

16チームのノックアウト方式による本大会は、見ごたえのあるゲームが多々ありました。優勝したシュライカー大阪はFリーグの下部組織。準優勝の聖和学園高校フットサル部は学校の部活動。これからもさまざまな背景を持つクラブが切磋琢磨してこの年代を盛り上げてほしいと願います。

来年も、その先も、totoの助成を受けながら私たちはしっかりとこの大会をささえ続けてまいります。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

特定非営利活動法人サロン2002 理事長 中塚 義実



www.toto-dream.com www.toto-experience.com 第18歳未満の方の購入又は贈り受けは法律で禁じられています。当賞金は宝くじではありません。賞金・販売：社団法人日本スポーツ振興センター

大会結果

第4回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

2020年1月4日(土)、1月5日(日) 長野/ことぶきアリーナ千曲



得点ランキング

順位	選手名	所属	得点
1	畦地 智志	gatt 2008 U18	6
2	桐山 佑大	立命館宇治高校フットサル同好会	5
2	田代 海	聖和学園高等学校フットサル部	5
4	熊谷 高乙	北星学園大学附属高等学校	4
4	轟敷 希望	シュライカー大阪 U-18	4
4	武内 遼生	北星学園大学附属高等学校	4
4	高木 隼斗	フウガドールすみだファルコンズ	4
4	大澤 寛治	ZOTT WASEDA JUVENIL	4
4	杉村 和哉	鶴見大学附属高等学校	4
4	数内 涼也	湘南ベルマーレFC ロンドリーナ U-18	4
4	神田 亜典	ZOTT WASEDA JUVENIL	4
4	宮下 泰也	日本ウェルネス筑北 SC	4
13	伊藤 巧真	北星学園大学附属高等学校	3
13	松友 亮輝	神戸国際大学附属高校	3
13	千葉 聖	CRAQUES U-18	3
13	松井 茂樹	立命館宇治高校フットサル同好会	3
13	井上 純世	聖和学園高等学校フットサル部	3
13	大石 颯馬	CRAQUES U-18	3
13	高橋 竜ノ介	鶴見大学附属高等学校	3



賀川浩貴 (得点王)



畦地 智志 選手

賀川浩

1934年神戸出身。神戸一中などでプレーした後、サンケイスポーツ編成所を経て、現役最年長のスポーツライター、サロン2002正会員。2010年に日本サッカー協会入り。2015年にはFIFA会員賞を受賞した。

大会要項

1. 名称

第4回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ

2. 主催

特定非営利活動法人サロン 2002

3. 主管

長野県フットサル連盟

4. 後援

長野県、長野県教育委員会、千曲市、一般社団法人信州千曲観光局、一般社団法人長野県サッカー協会、戸倉上山田温泉旅館組合連合会

5. 協賛

加茂商事株式会社、株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション、多摩大学

6. 会場

ことぶきアリーナ千曲（長野県）

7. 日程・会場

2020年1月4日（土）、5日（日）

8. 参加資格

- (1) 一般財団法人日本フットサル連盟に加盟登録した単独のチームであること（準加盟チームを含む）。
- (2) 前項のチームに所属する2001年4月2日以降に生まれた選手で男女の性別は問わない。但し、高等学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。
- (3) 当該チームにおいて、2019年度のU-18フットサルリーグに出場している選手であること。

9. 参加チーム

参加チームは、次の各号により選出された16チームとする。

- (1) 地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管または後援して開催される2019年度のU-18フットサルリーグの優勝チーム。
- (2) 出場チームが16チームに満たない場合は、以下の順で出場チームを選出し、16チームでの開催とする。
 - ① 前回大会優勝のチームが所属するリーグの準優勝チーム
 - ② 当該年度のリーグ参加チーム数の多いリーグの準優勝チーム

10. 大会形式

16チームによるノックアウト方式で行う。1回戦・準々決勝敗者による交流戦を行う。

11. 競技規則

大会実施年度の「フットサル競技規則」による。

12. 競技会規定

以下の項目については、本大会で規定する。

- (1) ピッチ 35～40m×16～20m
- (2) ボール 試合球：フットサル4号ボール
- (3) 競技者の数 競技者の数：5名 交代委員の数：9名
- (4) チーム役員 チーム役員：4名以内
- (5) 競技者の用具

① ユニフォーム

- (ア) フィールドプレーヤー、ゴールキーパーともに、色彩が異なり判別しやすい正副のユニフォーム（シャツ、ショーツ、ストッキング）を参加申込書に記載し、各試合には正副ともに必ず着用すること。
- (イ) チームのユニフォームのうち、シャツの色彩は審判員が通常着用する黒色と明確に判別しうるものであること。
- (ウ) フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーに代わる場合、その試合でゴールキーパーが着用するシャツと同一の色彩および同一のデザインで、かつ自分自身の背番号のついたものを着用すること。
- (エ) シャツの前襟、背面に参加申込書に登録した選手番号を付けること。ショーツにも選手番号を付けることが望ましい。選手番号は服地と明確に区別し得る色彩であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。
- (オ) 選手番号については1から99までの整数とし、0は認めない。1番はゴールキーパーが付けることとする。必ず、本大会の参加申込書に記載された選手固有の番号を付けること。
- (カ) ユニフォーム広告表示により生じる会場等への広告掲出料等の経費は当該チームにて負担することとする。
- (キ) その他のユニフォームに関する事項については、日本サッカー協会のユニフォーム規程に則る。

- (2) 靴：キャンパス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質で出来ており、接地面が艶色、白色、もしくは無色透明のフットサルシューズ、トレーニングシューズ、または体育館用シューズタイプのもの。（スパイクシューズおよび靴底が着色されたものは使用できない。）

- (3) ビブス：交代委員は、競技者と異なる色のビブスを用意し、着用しなければならない。

(6) 試合時間

30分間（前後半各15分間）のプレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは5分間（前半終了から後半開始まで）とする。

(7) 試合の勝者を決定する方法（試合時間内で勝敗が決しない場合）

- ① 交流戦は引き分けとする。
- ② PK方式により勝敗を決定する。PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。
- ③ 決勝：10分間（前後半各5分間）の延長戦を行い、決しない場合はPK方式により勝敗を決定する。延長戦に入る前のインターバルは5分間とし、PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。

13. 懲罰

- (1) 本大会において退場を命じられた選手は、自動的に本大会の次の1試合に出場できない。
- (2) 本大会期間中に警告の累積が2回に及んだ選手は、自動的に本大会の次の1試合に出場できない。
- (3) 前項により出場停止処分を受けたとき、1次ラウンド終了時点で警告の累積が1回るとき、または本大会の終了のとき、警告の累積は消滅する。
- (4) その他、本大会の懲罰に関する事項については、本大会の大会規律委員会が決定する。

14. 参加申込

- (1) 1チームあたり26名（役員6名、選手20名）を上限とし、選手は選出元のリーグに登録していること。
- (2) 申込み締切日以降の参加申込内容の変更は認めない。

15. 電子選手証

各チームの登録選手は、日本サッカー協会発行の電子選手証の写し（写真が登録されたもの：フットサル登録選手）、または選手証（写真が貼付されたもの：サッカー登録選手）を、代表者会議および試合会場に持参すること。電子選手証または選手証が確認できない場合は、試合に出場できない。

16. 組み合わせ

主催者において決定する。

17. 参加料

1チームあたり30,000円

18. 表彰

優勝、準優勝のチームを表彰する。

19. 経費

旅費交通費は各チーム負担とする。

20. 傷害補償

チームの責任において傷害保険に加入すること。

21. 負傷対応

競技中の疾病、傷病等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。

22. その他

- (1) 代表者会議は4日（土）9:00よりことぶきアリーナ千曲にて行う。代表者1名はユニフォームおよび電子選手証を持参して参加すること。
- (2) 1回戦のユニフォームは上記の代表者会議にて決定する。以後の試合は、試合開始の90分前、マッチナンバー13、14は1時間前にマッチコーディネーションミーティングを行い決定する。
- (3) 参加チームと選手は日本サッカー協会の基本規程および付属する諸規程を遵守しなければならない。
- (4) 大会規定に違反し、その他不正行為等があった場合は、そのチームの出場を停止する。
- (5) 試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止になった場合、その帰責事由のあるチームは0対5または、その時点のスコアがそれ以上であればそのスコアで敗戦したものとみなす。
- (6) 本実施要項に記載のない事項については、主催者にて決定する。

4. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2019

2019年12月21日（土）～22日（日）、筑波大学附属高校敷地内「桐陰会館」にて東京都高体連研究部と特定非営利活動法人サロン2002の共催で標記フォーラムが開かれた。

2015年から毎年開かれる標記フォーラムは、今回は2日間の通いのプログラムである。過去の参加校と東京都高体連研究部常任委員の勤務校を中心に10月に告知を開始。2日間のプログラムにすべて参加できることを条件として募集したところ、28名の生徒が参加した。

実り多い、有意義な2日間であったことは、生徒の感想から知ることができる。

【目的】

1. 2020年へ向けて高体連加盟校の生徒・教員が、1) オリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解し、2) 学校や競技種目を越えて人的交流をはかる。
2. 2020年以降も高校生対象の国内ユースフォーラムを続けていくための組織づくりに貢献する。^{注1)}

【主催】 東京都高等学校体育連盟研究部（東京都高体連研究部）^{注2)}
特定非営利活動法人サロン2002（NPO法人サロン2002）

【協力】 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）^{注3)}

【期日】 2019年12月21日（土）～22日（日）

【会場】 桐陰会館（筑波大学附属中学・高校 敷地内）

【参加者】 高校生28名（筑波大附6名、附属坂戸4名、帝京6名、自由学園女子8名、都立府中東2名、クラーク記念国際2名）、スタッフ17名（NPOサロン5名、東京都高体連研究部5名、引率教諭5名、CORE3名、その他2名 一部重複あり）

※原則として、東京都高体連研究部常任委員およびこれまで「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」に参加した学校から募集する。すべてのプログラムに参加できることを求める。

※顧問の引率は求めない。学校ごとに、校長印が押された参加者名簿を提出する。参加者はイベント保険に加入する（保険料は主催者が負担）。

【プログラムとスケジュール概要】

◆12月21日（土）

14:30～15:00 受付

15:00～16:00 オリエンテーション「クーベルタンと嘉納治五郎」 中塚 義実（筑波大学附属高校）

16:10～17:00 講義① 東京2020大会の特徴 真田 久（筑波大学教授）^{注4)}

17:10～19:00 講義② 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心 江上 いずみ（筑波大学客員教授）^{注5)}

19:00 解散

◆12月22日（日）

9:00～11:00 演習 グループ討議とポスター制作<NPO法人サロン2002/都高体連研究部>

11:10～12:00 実習 ボッチャ体験会 <NPO法人サロン2002>

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～15:45 第2回 NonBorderボッチャ交流会 ^{注5)} <NPO法人サロン2002>

15:45～16:00 クロージング

16:00 解散

【参加手続き】「参加者名簿」を用いて各学校で取りまとめる（校長印必要）

【参加費】無料（ただし「イベント保険」「ボッチャ交流会参加費」は東京都高体連研究部が支出）

【注一覧】

- 注1) 近代オリンピックの創始者の名を冠した「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（国際YF）」が、CIPC（国際ピエール・ド・クーベルタン委員会）主催で2年に一度、開かれている。世界中から100名以上の高校生が集い、座学や討議、スポーツ交流やアート活動を通してオリビズムを学ぶ機会である。日本からは2009年に生徒2名がオブザーバー参加して以来、毎回参加。2015年からは7名のフルメンバーが認められ、参加者選考を兼ねた「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム（国内YF）」がCOREやNPOサロン、JOA（日本オリンピックアカデミー）主催で開かれるようになった（2015、2016、2018年に開催）。このムーブメントを全国に広げ、末永く続けていくためにもさまざまな機関の連携は不可欠である。「続けていくための組織づくりに貢献する」ことを目的の一つに掲げ、東京都高体連研究部主催での国内YFが企画された（2017、2019年に開催）。
- 注2) 東京都高体連加盟専門部の一つ。都内の高校運動部についての研究を推進するとともに、毎年「東京都高体連研究大会」を主催し、部活動の今後のあり方やオリビズムについての普及・啓蒙をはかる。全国高体連研究部では同様に全国研究大会を開催。2020年1月の第54回大会では、東京都が課題研究「運動部活動が育むものとは何か一部活動の存在意義についての調査」を発表した。
- 注3) 嘉納治五郎生誕150年の2010年に発足した筑波大学の学内組織で、日本初のOSC（Olympic Study Center）としてIOC（国際オリンピック委員会）から認定を受ける。11校ある附属学校を活かしながら「オリパラ教育」事業に先駆的に取り組み、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」をリードする。
- 注4) CORE事務局長として日本のオリンピック教育を牽引する。2019年のNHK大河ドラマ「いだてん」では歴史考証に携わる。
- 注5) 大学や官公庁、企業、医療機関、介護施設などで「グローバルマナーとおもてなしの心」などの講演を手掛けるほか、全国の小中高等学校で「おもてなしの心」をテーマに講演中。

【2日間の様子】

◆12月21日（土）

オープニングでコーディネーター（中塚義実）から「クーベルタンと嘉納治五郎の功績」の説明と「これまでの国際・国内ユースフォーラム」が紹介された。2019年8月にフランス・マコン市で開催された第12回国際YFに参加した6名の生徒のうち4名が登壇し、スライドを用いて説明した。

COREの真田久事務局長による「東京2020大会の特徴」の講義はクイズ形式で生徒に問いかけながら進められ、生徒も少しずつつぼぐれてきた。江上いずみ氏ははじめに簡単なゲームを取り入れ、初対面の生徒が交流できるよう促した。休憩後の「国際スポーツ大会におけるおもてなしの心」の講義は心温まるものであった。最後に東京都高体連研究部の庄司一也部長から全体を通してのコメントがあり、集合写真を撮って初日を終えた。

◆12月22日（日）

グループ討議のテーマ「共生社会」は前日に示され、各自が準備をして2日目に臨んだ。4～5名の5班に分かれ、議論の成果をポスターにまとめる。時間は短いですが、各班とも意欲的に取り組んだ。

終了後はボッチャ体験会に参加。一般の参加者も徐々に集まり、ボッチャのゲームとボールづくりを体験する（通常の6球に加え、自作の7球目を採用）。

午後のボッチャ交流会には約150名が集まった。ナイジェリアやケニアからの参加者、車椅子の方、高齢者や幼児など、多種多様な人々が、文字通り「Non-Border」でボッチャを楽しんだ。討議のテーマである「共生社会」の実践の場となり、高校生にとって貴重な機会となった。

ボッチャ交流会の第1部をもってユースフォーラムを終えた。



オープニング。緊張の面持ち



江上いずみ氏の講義はまずはIce Breakingから



東京都高体連研究の庄司一也部長が初日の総括



初日の参加者で記念写真



2日目は「共生社会」をテーマにグループ討議



はじめてのボッチャに高校生は夢中

【生徒の感想】 (Googleフォームを用いてアンケートを回収。14名が提出。うち4名を抜粋)

- この2日間のユースフォーラムはオリンピズムを肌で感じるとてもいい機会でした。始めはどんなことをするのかドキドキでしたが、講義やスポーツ、ディスカッションを通して、多くの人と交流ができ、新しい繋がりが生まれました。特に印象に残っているのは、2日目に行われた Non-Border ボッチャ交流会です。オリンピズムや共生社会について、言葉では理解していても、その環境の実現となると簡単にはいかない部分があると思います。ですがこの交流会は、様々な差異があっても、それを全く感じないような、賑やかで、楽しいスポーツ大会で、とても驚いたのと、良い経験になったとおも

います。とても濃い2日間を過ごせました。参加して良かったです。

- ・午後のポッチャ交流会では様々なチームが参加していてとても楽しかったです。障がいの有無や国籍に縛られず試合を楽しみ、終わったらみんなで握手やハイタッチをする姿は今後の「共生社会」の達成への第一歩のように感じました。様々な事を学ぶことができた今回のユースフォーラム。この経験を自分の中だけに留めるのではなく、どんどん発信していければいいと思いました。
- ・全体を通して私が学んだのは、人と交流することの大切さだ。最初は他校の生徒たちとたったの二日間で本気の討議などできないに等しいと思っていた。しかし思いの外フレンドリーに優しく接してくれたことや、共生社会という題が興味のあることだったことから、最後には心からポッチャを楽しめるまでになった。人と自分から接するのが苦手な私にとって、とても貴重な経験となった。ポッチャでは、新鮮な考えにたくさん出会うことができた。今まで、スポーツは障がい・性別の関係のない自由な交流の場である、ということは分かっているつもりだったが、実際にやってみて、車椅子の小学生の方が上手だったり、外国の人のためらいのない投げ方に感動したりと、たくさんの刺激を受けた。
- ・スポーツを通して学べるのも知ることが出来ましたが、スポーツを通して繋がる事を今回学ぶことが出来ました。共生社会について考えた時に繋がりを感じました。外国の人でも障害を持っている人でも、苦手な事がそれぞれ違うのと同じ様に、それは私達の苦手となんら変わりのない物だと感じました。またそこから、お互いを結ぶための方法や場所を考えた時にスポーツが、みんなを繋ぐ架け橋になってくれると思いました。こうやって話していくうちに、案外繋がりたいと思えば手段が身近にあり、それぞれがこうしたい、ああやりたいと思ったらどんどん行動に移して行かなくてはならないとも感じる事が出来ました。

【総括および今後の展望】

- ・2日目の午前中に「共生社会」をテーマにグループ討議をしてポスターを作成し、そのポスターを午後のポッチャ交流会参加者に披露し、評価してもらい流れはよかった。生徒たちは驚くほど意欲的に取り組み、ポッチャ交流会への多様な参加者も興味をもって高校生のポスターに見入っていた。
- ・「日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 (CJPC)」が2019年に発足した。国際 YF への生徒派遣や国内 YF の企画・運営については CJPC を中心に展開することになるだろう。高体連の組織力を生かしつつ、日本独自のオリンピック教育を2020年以降につなげていきたい。
- ・次回の国際 YF は2021年8月にキプロスで開催。派遣生徒の選考を兼ねて「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020」を2020年の年末に筑波大で開催予定。同時期に第7回 JOA ユースセッション in 中京大も開かれ、これらの参加者から国際 YF 参加者が選考される見込み。このムーブメントを全国展開したい。各地で取り組みが始まったのだから、この灯を絶やすことなく継続していきたい。2020以降の「オリパラ教育」の担い手の一つとして、NPO 法人サロン2002も組織としての取り組みが必要。担い手としての体力も必要。ポッチャ交流会とも絡めながら多角的に展開していきたい。

(文責：中塚義実)

5. 第2回Non-Borderボッチャ交流会

2019年12月22日、桐陰会館にて「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」を開催しました。本交流会は年齢・性別・国籍・スポーツ経験・障がいなどの違いを越えて交流し、「スポーツを通じた“ゆたかなくらしづくり”」を目指すことを目的とした、2019年2月の第1回交流会に続く2回目の開催です。参加者は総勢150名ほどとなり、居住地（首都圏だけでなく新潟からも参加）、国籍（ナイジェリアやタンザニア、ケニアなどからも参加。NHKスワヒリ語放送の取材あり）、年齢（幼児からお年寄りまで多種多様）、スポーツ経験（ナイジェリア女子バレー代表選手も！）、あるいは障がいの有無も越えたまさに Non-Border な交流を図ることができました。



ナイジェリア代表
バレーボール女子選手の挨拶

当日の様子を簡単にご紹介させていただきます。まず、希望者によるボッチャ体験会で幕を開け、英語同時通訳付きの開会式では、ルール・進行説明の他、参加チームからの一言紹介を行いました。

そして今年度の交流会の特色の1つに、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2019」との同時開催が挙げられます。このユースフォーラムでは筑波大附属・同附属坂戸・帝京・自由学園・都立府中東・クラーク記念国際の各学校から集まった20名強の高校生が、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史、おもてなしの精神について学び、その後、アウトプットの1つとして「共生社会」をテーマにグループワークを行いました。開会式でのチーム紹介は、グループで制作したポスター発表の場ともなり、参加者の皆さんにはイチオシポスターへの投票をお願いしました。

続いて第一部では、24チームが6リーグに分かれ総当たり戦を行い、その後の順位決定戦を経て、優勝3チームを決定しました。今回初めてボッチャを行うチームもあれば、日頃から積極的に練習を重ねているチームもありましたが、どのチームも一球入魂。各コート、試合の最後まで何が起こるかわからない展開に、固唾を飲んだり歓声を上げたりと非常に盛り上がりを見せていました。そしてボッチャおよびポスター投票の優勝チームを表彰し、第一部は幕を閉じました。

その後、当日くじ引きで決定した混合チームによるノックアウト戦を主とする第二部に移ります。どのチームも一丸となって試合に挑む様子は即席のチームとは思えないほどでした。日頃とは異なるチームメイトとのプレーに相乗効果が起き、ハイブリッドな戦術や奇跡的な場面の数々も生み出されていたようです。最後には決勝戦のコートを全員で囲み、会場全体で試合の行く末を見守りました。



チームメイトが見守る中、渾身の一投！

また今年度は新たにいくつかの企画が加わり、非常に盛り沢山の会だったように思います。

まず実行委員会の結成です。サロン2002のメンバーに加え、第1回交流会にプレーヤーとして参加した方など、非常に頼もしい皆さんが実行委員に名乗りを上げてくださいました。8月16日、11月22日の2度の実行委員会を経て、交流会本番を迎えました。メンバー一同の様々な意見やアイデアを総結集させ、前回よりパワーアップした交流会となりました。

次に手作りボッチャボールワークショップの実施です。世界中で実施されているボッチャですが、中には容易に用具が手に入らない地域も存在します。実際にネパールでボッチャの指導・普及を行っていた講師から、身近な材料である古紙や砂、カラーテープを用いたボッチャボールの作り方を教えていただきました。なお、本交流会特別ルールとして、正式なボールにこの手作りボールを1球追加し投球することを可能としており、用意していた材料が足りなくなるほどの人気を博しました。

そしてボッチャバーでは、ドリンクに加え、ケニアなどのアフリカ諸国でよく食べられているスナック「マンダジ」「サモサ」を新たに提供しました。収益はサロン 2002 が毎年 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップを開催し、かつ台風 19 号災害により被災された千曲市に、市民の方々のための義援金としてお届けしました。



手作りボッチャボール作成中

その他昨年に引き続き、団体紹介デスクでは 5 つの団体が活動紹介・チャリティー販売などを行いました。また、日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) が展開する i-PLAY TRUE リレーでは参加者の皆さんから「2020 年以降に残したいスポーツのいいところ」や「交流会で感じたスポーツの価値」などのメッセージを集めました。そして会場校である筑波大学附属中学校・高等学校の卒業生や学校の歴史を紹介する資料室を開放。大河ドラマ「いだてん」で話題の金栗四三氏・嘉納治五郎氏などの功績も展示されており、各々、試合の合間に楽しんでおられました。

以下、参加者の皆様から頂きましたコメントの一部をご紹介します。

「ボッチャの奥深さを感じそれ自体の楽しさも感じられたし、それを通してなら何のつかえもなく知らない人と話せるのだということを感じた。海外の方と話すことをきっかけに英語での会話に自信を持てるようにもなった気がする。」「今回このボッチャ大会に参加して良かったと思います。そう思う理由はただ楽しかったからという理由だけでなく話したことの無い人と交流できたり年代やハンディキャップ、出身を越えた交流ができたことが大きい理由です。こういう機会を増やして私と同じような経験を多くの方がするべきだと思います。いろいろな人と一緒に過ごすことで絆が生まれることを実感しました。」「ボッチャのような誰でもできる、人を選ばない競技は素敵なものだと思うのでオリンピックの競技になればいいなと思いました。」「ボッチャ自体は思っていた以上に難しく、ボールの重さや的が動くことなど、驚くことが多くありました。身体のだこかが不自由な方たちもそれを感じさせず楽しんでいたり、様々な国から来た人たちがボッチャを通してたくさん関わっていて、年齢や性別、障がい、国を超えて共に楽しんで接することができるのは素晴らしいことだなと思いました。スポーツだからこそできることがあると改めて実感しました。」…等々。



現役高校生を囲んでの懇親会

本交流会はボッチャの普及が目的ではなく、Non-Border な交流を図る 1 つのツールとしてボッチャを利用しています。今回の交流会開催によって参加者の皆さんに種が蒔かれるきっかけとなり、スポーツによって得られた Non-border な交流の芽生えが今後も継続して成長し、いつかゆたかなくらしという大輪の花が咲くことを願います。

なお、今回の交流会は「草の根事業育成財団」からの助成を受け、また、「SPORT FOR TOMORROW」認定事業として実施しました。加えてJ-Workout、豊島区スポーツ推進委員会、文京区スポーツ推進委員会、国際障がい者活躍社会創造協会の皆様をはじめ、実施にあたりまして多くの方々のご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

益々のパワーアップが見込まれる第3回も、乞うご期待ください！

<報告映像>

「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」に参加した高校生の今井由稀さん(クラーク記念国際高校)が、交流会の様子を映像でまとめてくれました。ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=l-0d1aiTXug&feature=youtu.be>



「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」参加者全員での集合写真

6. リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト

サロン 2002 では、履き潰されたサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用して、コインケースやキーケース、サンダルなどを制作する「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」を実施しています。この活動は、サロン 2002 が事務局業務を受託しているユースサッカーリーグ「DUO リーグ」で、「巨大靴型トロフィー」を製作したことに端を発します。DUO リーグでは優勝チームでトロフィーを持ち回していましたが、2008 年にトロフィーを紛失するという出来事が発生しました。その際に、「「遊び心」を持った DUO リーグらしいトロフィーを製作しよう!」、「リーグに出場するサッカークラブ（主に高校サッカー部）の資源を活用しよう!」という発想から、リーグに出場する選手より履き潰された靴を回収し、現代アーティスト「KOSUGE1-16」と靴創家「靴郎堂本店」の協力を得て製作したものが「履けなくなった靴でできた、履けるトロフィー」です。現在では、トロフィーには優勝チームのロゴが刻まれ、MVP や得点王の選手にはシューズの「革」から製作した靴型キーホルダー（「巨大靴型トロフィー」のミニチュア版）が送られています。また、トロフィーを製作したことをきっかけに、サッカーシューズやサッカーボールの「革」から新たな商品を製作するワークショップを各地で実施するようになりました。

制作した当初は 12 年間を期限（節目）として、このトロフィーを利用していくことを想定しており 2019 年が 12 年目の年となりました。しかし、12 年間を経て、「巨大靴型トロフィー」が DUO リーグのシンボルとして定着してきており、今後利用しなくなることはもったいないということで、DUO リーグ会議にて、2020 年以降も継続してトロフィーを利用していくことが決定しました。



■ J3リーグクラブ「Y.S.C.C横浜」でのワークショップ実施

6月2日（日）、横浜（しんよこフットボールパーク）にてサッカーJ3所属「横浜 YSCC」との連携により「スキンプロジェクト（靴磨き講習会）」を開催しました。サロン 2002 からは小澤圭史氏（靴屋・スキンプロジェクトメンバー）が講師を務め、嶋崎理事・守屋夫妻・梅澤佳子氏の生徒（多摩大学 2 年生）にスタッフとして参加いただきました（ご協力いただき誠にありがとうございました!!）

靴磨き講習会自体の参加者数は 50 名に満たない人数でしたが、展示していた靴型トロフィーに関心を示す人は非常に多く、特にセネガル人やマラウイ人の参加者が熱心に質問していたのが印象的でした。高校生の靴から制作していることや、リーグ戦のトロフィーとして使用していることをお伝えしたところ、とても感心し、今後サンダル作りやコインケース作りのワークショップにぜひ参加したいとのことでした。何名かとお話をする中で、「プロジェクトの詳細はどこを見たら分かるか」という質問があり、近年更新されていないホームページ（<http://www.kosuge1-16.com/skinproject.html>）を紹介しましたが、サロン 2002 として発信方法を整備・工夫していければ、収益事業にもなる可能性を感じました。

今回の企画は「横浜 YSCC」が毎年開催している「Y.S.C.C 杯」の 13 回目として「第 13 回 Y.S.C.C 杯 横浜開港記念サッカー大会」と題して開催された少年サッカー大会のグラウンド脇で実施しました。社会貢献活動を積極的に行い、マラウイ人選手も在籍する「横浜 YSCC」が、「フットボールxSDGs（持続可能な開

発目標) ×アフリカ」をテーマに開催する大会の中で、SDGs の目標 12「つくる責任・つかう責任」を具現化する企画として実施に至ったものです。SDGs への注目が高まる中で、スキプロジェクトは民間企業の CSR 活動などとも連携できるのではないかと感じました。

サロン 2002 会員・メンバーの皆様においても、今後スキプロジェクトを実施できる機会がありましたらぜひご連絡ください。

当日のイベントの様子はこちらからもご覧いただけます。

<https://youtu.be/Vv03UbE1Ozw>



7. 「DUOリーグ」事務局業務受託

DUO リーグは、東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校運動部を中心としたサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとなったリーグです。レベルやニーズに応じて、「歯磨き感覚」「引退なし」「補欠ゼロ」でサッカーが楽しめる環境づくりを目指しています。サロン 2002 理事長の中塚義実が初代チェアマンを務め、DUO リーグの理念や構想にはサロン 2002 の月例会での議論が大きく影響しています。現在は、地区トップリーグへの昇格をかけた前期リーグ戦とピッチのサイズや出場選手数に柔軟性を持たせた後期リーグ戦（フリーサイズフットボールおよびフレキシブルリーグ）が行われています。

サロン 2002 では、2016 年 2 月より DUO リーグの事務局および企画部業務を受託してきましたが、2020 年度よりアドバイザーという立場となり DUO リーグの運営を DUO 加盟クラブ自身が当事者意識を持って行っていくためのサポートを行っていくことになりました。2019 年度は、通常の事務局・企画部業務に加えて、これまで築いてきた DUO リーグの理念と業務を引き継ぐための情報提供を中心に行いました。

8. SPORT FOR TOMORROW 事業への参加

SPORT FOR TOMORROW（以下、SFT）は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC総会において安部晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進する国際協力・交流事業です。2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上・1000万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げることを目指してきました。そして、2019年12月9日に開催された「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム会員カンファレンス2019」にて、スポーツ庁の鈴木長官より目標数の達成が発表されました。

SFTのムーブメントを推進する官民連携のネットワーク「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」に会員団体として加盟しているサロン2002では、海外の方も参加する「Non-Border ボッチャ交流会」をSFT認定事業として実施することや、外務省が主導したソマリア難民キャンプへのサッカー用具寄贈等へ協力することで、スポーツの価値を世界に発信し、目標を達成することに貢献しました。



9. 事務局報告

1. 2019年度NPO法人サロン2002会員・スポネットサロンメンバー数

NPO法人サロン2002会員数	29名
スポネットサロン2002メンバー数	70名

2. 2019年度役員・事務局

理事長	中塚義実
副理事長	笹原勉、本多克己
理事	嶋崎雅規、関秀忠、竹中茂雄、松下徹
監事	茅野英一
事務局	岸卓巨、皆川宥子

3. 事業内容

	事業内容
通年	ネットワーク会員の募集、ホームページ・メーリングリストの運営、会員名簿の作成、ユースサッカーリーグ「DUOリーグ」からの業務受託
4月	4月月例会「コミュニティ型のサッカーグラウンドづくり」
5月	5月月例会「ラグビーはよくわからない…という方のための、ラグビーワールドカップ日本大会の楽しみ方」
6月	2019年度サロン2002総会・意見交換会 サッカーJ3クラブ「Y.S.C.C横浜」でのリサイクルプロジェクト実施
7月	公開シンポジウム「ラグビーワールドカップ2019を語ろう！」
8月	第2回 Non-Border ボッチャ交流会 第1回実行委員会 8月月例会「ラグビーW杯2015：伝説の『日本 vs 南アフリカ』DVD観戦 ー日本開催のラグビーW杯に先立つ観戦ガイド」
9月	9月月例会「シンガポールで感じたこと② ー13年ぶり2度目のAPYLS（アジア太平洋青少年リーダーズサミット）引率を通じて」
10月	10月月例会「マコン（フランス）に行ってきました ー第12回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告会」
11月	11月月例会「第2回 Non-Border ボッチャ交流会プレイベント（ボッチャ交流会&第2回実行委員会）」
12月	12月月例会「それぞれのラグビーワールドカップ2019 ー思い出話とこれからの話」 「クーベルタンー嘉納ユースフォーラム2019」主催 「第2回 Non-Border ボッチャ交流会」主催
1月	「第4回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」主催 1月月例会「サッカーの脳挫傷の現状と GK ヘッドギア標準ルール導入の可否」
2月	2月月例会「メガスポーツイベントと地域活性 ーラグビーワールドカップが地域に遺したもの」→新型コロナウイルスの影響で延期
3月	広報誌「游 ASOBI」2020.4 第3号の発行、配布